

第2回横浜市緑区民文化センター指定管理者選定評価委員会会議録

日 時	令和5年7月20日（木）午後1時～午後3時30分まで
開催場所	緑区役所2階会議室2A
出席者（敬称略）	石田 麻子、井上 敏正、草加 叔也、平山 紀美子、真船 悦子（50音順）
欠席者（敬称略）	なし
開催形態	一部非公開（傍聴人5人） 議題1について、応募団体関係者は、他の応募団体の面接審査は傍聴不可
議 題	1 面接審査（応募団体によるプレゼンテーション及び質疑応答）【公開】 2 審議、指定候補者及び次点候補者の選定【非公開】 3 その他【非公開】
決 定 事 項	横浜市緑区文化センターの指定候補者に「みどりアート&メディアパートナーズ」を、次点候補者に「みどりシティクリエイツ」を選定し、緑区長に報告する。
議 事	1 事務局説明【公開】 （1）委員会の流れ 面接審査、休憩、審議・選定の順に行う。 （2）応募者について 応募者は2団体のため、応募書類及び面接審査は団体名を伏せて実施する。 （3）面接審査について プレゼンテーション20分、質疑応答20分とする。 （4）評価について ア 評価基準項目1から6までは5段階で評価する。配点が10点、20点、30点の項目は、5段階評価した点数に係数をかけて計上する。 イ 委員の評点を合算して総合評価を行い、その合計点が最も高い応募者を「指定候補者」とし、次に高い応募者を「次点候補者」とする。 （5）最低基準点について 最低基準点は、加減要素を除いた委員点数合計1,050点の6割である630点とする。 2 委員会の一部非公開の確認について【公開】 第1回委員会で決定したとおり、応募団体のプレゼンテーション及び質疑応答は公開とし、応募団体に関する評価の審査に係る意見交換については非公開とすることを確認した。 3 面接審査（応募団体によるプレゼンテーション及び質疑応答）【公開】 （1）みどりアート&メディアパートナーズ ア プレゼンテーション イ 質疑応答

【主な質疑応答内容】

(委員)

提案書様式12のミッションを前期から新たに書き換えた理由を伺いたい。前期のミッションを達成したのか。何か他の理由があるのか。また、様式24の利用料金収入と自主事業収入が毎年増えているが、どのように増やす見込みか具体的な方法を伺いたい。外部資金の導入について、様式24に特に記載がないが、どのように見込んでいるのか。

(応募団体)

前期ミッションについては、ほぼ達成したと考えており、今回新たにミッションを設定した。社会情勢の変化に応じて対応したものと考えている。利用料金収入については、コロナ禍であっても好調で、予算に対して想定以上の収入があった。そのため、今回の様式24の利用料金収入も手堅い数値と考えている。自主事業収入については、横浜市中心部と同じ価格設定ではなく、入場料を安く設定してきたため、著名なアーティストについては、今後もう少し価格を見直す余地があると考えている。外部資金は、文化庁の助成金や横浜市の補助金、神奈川県との協力金をいただいている。今後も補助金等を意識して事業を行う。

(応募団体)

このような外部資金は様式24の自主事業収入に組み込んでいる。また、自主事業の入場料については、利用者からのアンケートを徹底的に分析し、安価な値段で気軽に文化を楽しみたいという意見がたくさんあったため、これまで低価格に設定してきた経緯がある。適正な料金については、利用者のニーズをよく聴いた上で考えたい。

(委員)

様式24の収支バランスについて、固定的経費が多いが、人件費は毎年固定金額でよいのか。

(応募団体)

人件費については、横浜市の指定管理料の推移を現時点で想定できないため、同額としている。指定管理料の変化に応じて変わっていくが、過去5年間は指定管理料が増えていたため、人件費は増額していた。

(委員)

提案では地域に繋がろうという意識が強かったが、回覧板を回すだけではなく、地域ともう少し他のやり方でつながるとよいと思うが、どのように考えているか。

(応募団体)

「ビッグバンドのまち長津田」構想を計画しており、今までと違うつながり方ができると考えている。ミュージシャンをはじめ、商店街、自治会などに全面的に協力いただいて開催することを考えている。また、長津田だけでなく鴨居、中山、十日市場など緑区全体でも連携を深めたいと考えている。そのために地元のまちづくりの方々とも連携を深めたいと考えてい

る。

10周年式典で地元の中学校の吹奏楽部にファンファーレを演奏してもらったり、杉山原公園のハロウィンのイベントにアーティストを派遣したり、地元の方々とつながるような催しを開催したいと考えている。

(委員)

地元と施設でお互いに協力しあい、地域が盛り上がってほしい。地域全体では、施設が何をしているのか、知らない人もまだ多いので、もっと知ってもらう努力が必要と思う。

(委員)

ホール利用者(演者)も年々高齢化している。平台の準備を高齢の出演者が担うのは負担が大きい。オプション料を負担しても構わないので、施設で準備するなど、協力してもらいたい。

(委員)

住民から具体的な要望があった場合に、館としてどこまで相談に乗れるのか、そのあたりはどのような体制になっているのか。

(応募団体)

平台の準備については、舞台スタッフが4人いるので、館としてできないということではないが、基本的なスタンスとしては、利用者ができることは利用者が実施し、できない部分は施設が実施するという立場をとっている。他の団体との公平性も考慮した上でとなるが、どうしてもできない場合は、相談してほしい。

(委員)

外部資金の導入の話の中にあつた文化庁の助成金は、どの枠組で獲得したのか。

(応募団体)

青葉区・緑区・都筑区・港北区の北部4区による「文化施設の連携」の取組について45万円の助成金をもらっている。土絵や巡回展示でワークショップ費用を使った。文化庁の「地域連携」という枠組みでとったと聞いている。今年度は採択されなかったが、この連携の枠組みはこのまま継続していく。

(委員)

音祭り事業は今後なくなると聞いているが、今年度はどのように見込んでいるのか。

(応募団体)

今年度は緑区の芸術文化活動支援事業で「のはらハみどり」が採択されている。

(2) みどりシティクリエイツ

ア プレゼンテーション

イ 質疑応答

【主な質疑応答内容】

(委員)

様式14の文化芸術研修生の配置について、どういう人材をどのように集める見込みか。また、勤務シフトについて早番と遅番の勤務時間が8.5時間となっているが、労働基準法上、大丈夫なのか。その他収入増の取組について提案しているが、様式24の収支バランスに反映されているのか。アルバイトの人件費は、様式24の収支バランスの中の人件費の内訳の中に組み込まれているか伺いたい。

(応募団体)

研修生はパートナーシップ団体から、芸大の卒業生や現役学生でアーティスト志望の方や裏方に興味のある人材を紹介していただくことを考えている。需要があれば公募も考えていきたい。勤務体制については、一般的に8時間であるため0.5時間の残業となるが、月45時間を下回るような体制とする。その他収入については、収入の自主事業収入に反映させている。アルバイトは、すべて人件費の費目で見込んでいる。

(委員)

利用者・利用団体の高齢化が進んでおり、利用者が平台の準備を行うような力仕事は年々難しくなっている。利用者から「準備が大変」という申し出があった場合には、施設として協力してもらえるのか。様式23のサービス例の中にそのようなサービスは含まれるのか。サービス例は必ず実行されるものなのか伺いたい

(応募団体)

サービス例は必ず実行する。少しでも困ったら、スタッフにお声がけしてほしい。

(委員)

この施設ならではの特色を踏まえて、他の施設とどのような差別化できると考えているか。

(応募団体)

近隣にフィリアホール、町田市民ホール、杜のホールはしもとなどあるが、ホールだけで比較するとそれぞれ客席数が異なり、できるイベントが違っていると考えている。フィリアホールではクラシックを専門にした特徴があり、音楽を提供する場合でもジャンルなどで差別化が図れると考えている。

十日市場に新しくできたマンションの弊社のプロジェクトで、マンションの低層部分にステージや音楽室、文化活動ができる施設が併設されており、その施設との連携を図る。これは緑区でしかできないことと考えている。

(委員)

地域で活動している新しい団体だけでなく、例えば自治会などの地域資源との関係性の構築について方針はあるか。

(応募団体)

現指定管理者とパートナーシップを結んでいる団体様とは、指定管理者が

変わったとしても関係性は継続していく。他の地域の施設や自治会などとも連携していく。チラシの配架だけではなく、一緒に事業を行ったり、利用者会議に参加してもらい施設運営のアイデアをもらったり、一緒にやっていきたいと考えている。

(委員)

第一期指定管理の時、館長をはじめスタッフの方々の地域を知りたい、寄り添いたい、協力したいという思いを強く感じていた。第二期は次点となったが、反省も含めて今回どういう思いで応募したのか。

(応募団体)

現指定管理者であると現実を踏まえた上での提案となってしまうため、夢のある内容を提案しづらく、前回地域に寄り添う力が足りなかったと反省している。今回はその期間に別の施設で蓄えた経験を生かして緑区に合った提案をさせていただいた。

(委員)

緑区に合った提案とのことだが、それはその通りだと思う。緑区ではいきなり高いレベルにもっていっても多くの区民はついていけないと思う。高望みをしていない提案内容で、緑区での施設運営を経験され、特色を把握されていると感じた。

(委員)

様式12の「to be」の「心をつかむエンターテインメント」について具体的に伺いたい。シニア世代への対応として、シニア世代はYouTubeを見ているのか、そのあたりはどのように把握しているのか。また、舞台管理の国家資格を取得した場合にどのくらいの給料アップを見込んでいるのか伺いたい。

(応募団体)

YouTubeやSNSは高齢者の方にはとっつきにくいものと思うが、今回は若い方や新しい方にも興味を持ってもらいたく、従来のホームページは継続しつつYouTubeにも力を入れていきたい。館に来られない人にもYouTubeを使って文化に触れる機会を増やしたいと考えている。現在、施設のSNS登録者数は200～300人でまだまだ増やせる余地があると考えている。若い方が起爆材となりたくさん利用されることで、シニアの方にも見やすい環境を整えていく。「心をつかむエンターテインメント」については、シニアの方のたくさんの経験を伝承させていきたいとも考えており、気軽に触れられる文化として、クラシックやジャズだけでなく、昭和歌謡曲なども若者の中で興味が高まっており、世代を超えて楽しめる文化がまだあると思うので模索していきたい。舞台管理の国家資格については、利用者に安心して利用してもらうために取得している。資格の取得は給料に反映されるが、それを踏まえた人件費で提案しているため、そのために使用料が上がるということはない。今まで以上に安心して利用いただくため、常勤で有資格のスタッフを配置した。

	4 審議、指定候補者及び次点候補者の選定【非公開】 (1) 各応募団体についての講評 「令和5年度横浜市緑区民文化センター指定管理者選定委員会報告書」のとおり (2) 指定候補者、次点候補者について 各委員の採点を集計・審議の結果、次のとおりとなった。 1位 みどりアート&メディアパートナーズ 857点 2位 みどりシティクリエイツ 811点 いずれの団体も最低基準点（630点）を満たしているため、緑区民文化センターの指定候補者として「みどりアート&メディアパートナーズ」を、次点候補者として「みどりシティクリエイツ」を緑区長へ報告することとした。 (3) 総評 「令和5年度横浜市緑区民文化センター指定管理者選定委員会報告書」のとおり
資 料	1 緑区民文化センター選定評価委員会委員名簿 2 応募団体提案書類一式 3 第三者評価シート・H30年度の選定結果報告書の写し 4 評点表 5 スケジュール表